

IAUD Newsletter vol.2 第4号 (2009年7月号) 目次

1. *towards2010* みんなでコミュニケーション！
～静岡県のコミュニケーション支援ボードへの取り組み～ 1
2. ユニバーサルデザインフォントの取り組み
～リムコーポレーションが開発した Uni-Type™ ～ 6
3. Case Study・メディアのUDプロジェクト メディアのユニヴァーサルデザイン 10
4. 世界のUD動向：日本人間工学会第50回記念大会 人間工学活用事例展示ほか 14

今回の“*towards2010*”は来年の国際会議の開催地となる静岡県から取り組み紹介をしていただきます。国際会議を円滑に進め議論を深めてゆくため言語の違いを乗り越える「コミュニケーション」に対する配慮は重要なカギのひとつですが、静岡県でのコミュニケーションを支援する取り組みを最新のトピックスとともにご紹介いただきます。

towards2010

みんなでコミュニケーション！

～静岡県のコミュニケーション支援ボードへの取り組み～



6月に開港したばかりの富士山静岡空港（写真手前中央）から富士山を臨む

■ はじめに

去る6月4日、秀峰富士を眺望しながら離着陸できる富士山静岡空港がついに開港しました。静岡県政史上、最大のプロジェクトがようやく結実し、静岡県と国内、世界の各地を直接結ぶ空の玄関が開かれました。

ドーム型の屋根が付いた障害のある人のための駐車場や、見やすく大きな文字でわかりやすい多言語表記（中国語、韓国語、英語）の案内サインなど、ユニバーサルデザインに配慮した空港となっています。

2010年に静岡県で開催される国際ユニバーサルデザイン会議では、国内外からの多くの参加者をお迎えできることを楽しみにしています。

さて、今回は、知的障害や聴覚に障害のある人、幼児や空港の開港に伴い増加する外国人と、話し言葉を介さずにコミュニケーションできる「コミュニケーション支援ボード」への取組についてご紹介します。



<6月4日に開港した富士山静岡空港>

■ コミュニケーションのバリア

社会生活の中で私たちは、主に話し言葉でコミュニケーションをとっています。自分の気持ちや状態、願望や欲求を周囲の人に伝え、周囲の人から適切なサポートを受けながら暮らしています。しかし、知的障害や聴覚に障害のある人は、話し言葉によるコミュニケーションが困難な場合があります。こうしたことは周囲の人にはわかりにくく、視覚に障害のある人や車いす使用者、高齢者が直面するバリアに比べ、社会的な理解が進んでいるとは言い難い状況にあります。コミュニケーションにおけるバリアの解消は、情報技術の進歩により少しずつ改善されてきているものの、未だ十分ではありません。

■ 動作の入ったイラストで表現



こうした課題を踏まえ、静岡県では、明治安田こころの健康財団の協力を得ながら、同財団が啓発活動を展開している「コミュニケーション支援ボード」の普及に取り組んでいます。

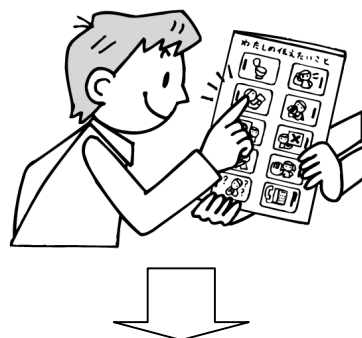
この「コミュニケーション支援ボード」は、話し言葉に代わる意思伝達ツールです。一般的な絵記号（ピクトグラム）と異なり、知的障害がある人でも親しみやすく、わかりやすいよう動作の入ったイラストを指で差しながら意思を伝えることができるよう工夫されています。

既に、コンビニ用、救急用、災害用、銀行用、鉄道用など、さまざまな種類のコミュニケーション支援ボードが作成されています。

<様々なコミュニケーション支援ボード>



自分で絵を指差す



指差した内容に応じてあげる



<駅で>



<病院で>



<警察で>

■ 静岡県版コミュニケーション支援ボード等への取組

コミュニケーション支援ボードの普及を図るため、市町村や事業者、団体などを対象とした説明会を県内各地で開催しました。説明会に参加した鉄道会社や銀行、コンビニなどでの利用も進んでいます。また、独自のコミュニケーション支援ボードへの取組も進んでいます。

○静岡県版（行政機関用）コミュニケーション支援ボード

昨年9月に、健康福祉センター（出先機関）の窓口で試験設置を実施し、その結果を踏まえ、行政機関の窓口用として、静岡県オリジナルのコミュニケーション支援ボードを作成しました。

「どこへ行きたいのですか？」などの質問のほかに、来庁者が「はい・ある」「わかりません」などの簡単な意思が伝えられるようになっていきます。筆談もできるように工夫してあります。外国人とのコミュニケーションを支援するため、イラストに日本語、英語、韓国語、中国語、ポルトガル語の5カ国語を併記しました。この静岡県版コミュニケーション支援ボードは県庁内をはじめ、出先機関や市町村等に配布しました。



＜静岡県版コミュニケーション支援ボード＞



＜県庁受付に配置した支援ボード＞

○外国人急病者対応用コミュニケーションボード



空港の開港に伴う外国人観光客等の増加に備え、急病の外国人等に対応するための「外国人急病者対応用コミュニケーションボード」を作成し、空港内施設、空港直行バス会社等に配布しました。

このボードには、体の部位や「すごく痛い」「痛くない」などのイラストが描かれ、指先で指し示すことで、言葉の通じない外国人患者との意思疎通が図れるように工夫されています。A4版表裏一枚で、英語、韓国語、中国語の3カ国語を記載してあります。

○タクシー楽楽ボード



静岡、清水の両商工会議所や静岡観光コンベンション協会では、タクシーを利用する外国人客に、料金システムや所要時間などを指で説明できる4カ国語のコミュニケーション支援ボード「タクシー楽楽ボード」を作成しました。

楽楽ボードは、「目的地の名前か住所を見せていただけますか」「有料道路を使うことを勧めますが、どうしますか」などの質問や、目的地までの料金・時間の見込みを日本語、韓国語、中国語、英語の4カ国語で表記されています。「料金がメーターで示されます」などのシステムの紹介のほか、乗客が「気分が悪い」「車を降りたい」などを伝えられるようになっています。

○（外国人観光客用）指さし会話ブック

県と県観光協会では、外国人観光客に対するおもてなし向上のため、指で言葉を指すことによりスムーズなコミュニケーションがとれる「指さし会話ブック」を作成し、県内の旅館・ホテルなどに配布しました。

指さし会話ブックは、英語、中国語（簡体字・繁体字）、韓国語の4言語版で構成し、「泊まる」「買う」「食べる」「乗る・見る」などの場面別に、掲載されている言葉を指さすことによって会話ができるようになっています。



○ さまざまな場面での利用が進んでいます。

静岡鉄道(株)では、鉄道駅版支援ボードを有人駅に設置しています。また、静岡銀行など金融機関では銀行用支援ボードを、コンビニエンスストアでは店舗用支援ボードを設置しています。

県内の交番やパトカーでは、警察庁が作成した警察用の支援ボードが利用されています。

■ みんなでコミュニケーション！

もちろん、このコミュニケーション支援ボードですべてが解決するわけではありません。支援ボードを会話の糸口として活用することで、相手との距離を少しでも縮めることができるのはいかと期待しています。

円滑なコミュニケーションもユニバーサルデザインの一つです。コミュニケーション支援ボードをはじめ、様々な形や手段によるコミュニケーションの機会の拡大を通して、誰もが「みんなでのコミュニケーション！」ができるユニバーサル社会の実現を目指していきます。



静岡県版コミュニケーション支援ボードは、行政だけでなく企業での利用も可能ですので、是非一度ご覧ください。

静岡県版コミュニケーション支援ボードはこちらからダウンロードできます。

<http://www.pref.shizuoka.jp/ud/supportboard.html>

ユニバーサルデザインフォントの取り組み

～リムコーポレーションが開発した Uni-Type™～

株式会社リムコーポレーション
間淵 雅宏

株式会社リムコーポレーションが、千葉大学との共同研究によりユニバーサルデザインフォントの商品化をしました。「ケータイなど小さな液晶表示画面で日本語を読む頻度が多くなり、視覚ストレスを軽減させる表示用書体をつくりたい」というコンセプトのもと、研究開発が始まりました。

今から4年前、第3世代ケータイが次々に各社から発表され、ケータイで字を読む機会が急激に多くなりました。音声よりもメールでのコミュニケーションが若年者では多くなり、年配の方でも日常生活にケータイが手放せなくなったのがこの頃からです。



携帯電話での使用例

若年者は視覚ストレスに強いのですが、メールでの情報量が多くなり、より小さなサイズで一画面に大量の文字を読む傾向があり、年配者はより大きなサイズで文字を読むものの、視覚ストレスには弱く、若年者も年配者も個人が抱える視覚ストレスは臨界点に達しているのが現代社会です。最近ではケータイで文字を読むのがメールだけでなく、ニュース、株価情報、天気情報、SNSなど様々な情報提供サービスが発達しましたが、最近では本をケータイで購入し読ませるという電子書籍サービスが急速に伸びてきています。

小さな画面で多くの文字を快適に読みたいという欲求は今後さらに強くなるでしょう。表示系ユニバーサルデザインフォント Uni-Type はこのような時代背景をもって生まれてきたまったく新しい書体です。

印刷用の書体と表示用の書体は目的が違います。デザインを優先させるのではなく文字単位の識別性を向上させたデザインコンセプトが重要となります。メールなどでは非漢字占有率が70%近いという調査結果から、ひらがな、カタカナの識別性を重視した書体デザインコンセプトとした Uni-Type が誕生しました。ここでは、Uni-Type のデザインコンセプトと開発経緯などをまとめ、当社のUDへの取り組みを紹介したいと思います。

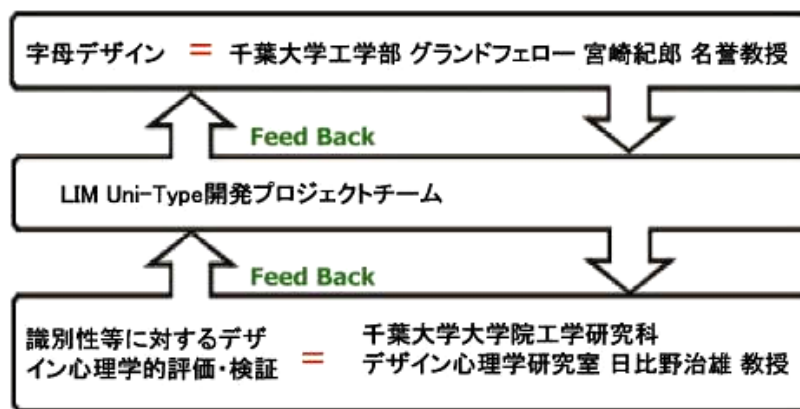
千葉大学との共同研究・白紙からのデザイン開発

まず、はじめにどのようにして書体デザインを開発したのか？を説明する前に「なぜ、自社開発ではなく産学連携という手順を選択したのか？」を説明します。

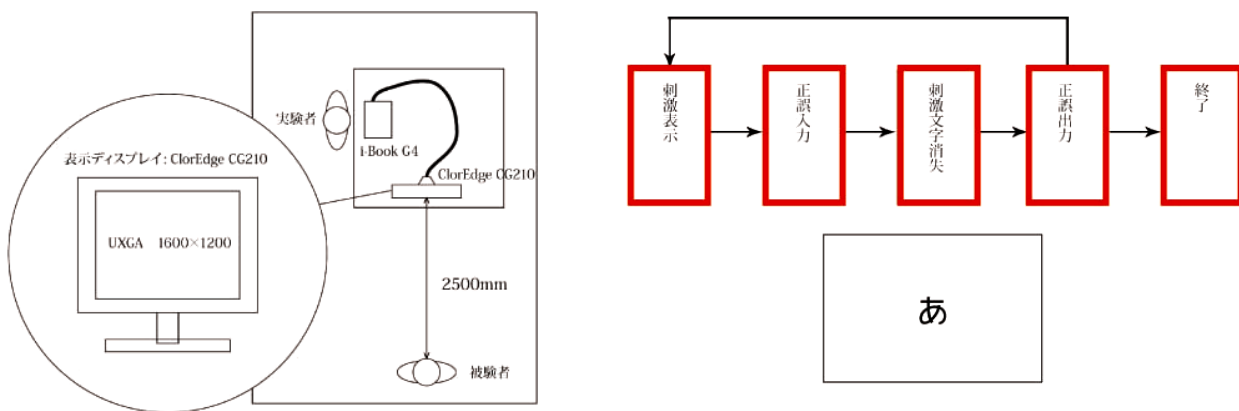
通常、書体はデザイナー個人の主観的な価値観で生まれるものです。しかし今回ユニバーサルデザインというコンセプトであるため、デザイナーの主観評価に委ねるデザインではなく、可読性という機能を目的としたデザインであるからには信頼性のある客観的評価が書体開発の軸になると考えました。ここで重要になったのは可読性とは何か？というテーマです。

このテーマについて数回の議論のなかで、浮かび上がったのが日本語独自の文字である非漢字デザインにおける濁点、半濁点の識別性でした。今回 Uni-Type という新しい書体をつくるにあたって、実際に用いられる場面は、ケータイなど小さな液晶画面における可読性です。メールで

は日常的に使用される文字は60~70%が非漢字です。そのなかでパリなのかバリなのか？パスなのかバスなのか？という濁点、半濁点の識別性が重要であると考えました。この非漢字における濁点、半濁点をこれまでにない発想で機能性を重視したデザインとすることからデザイン開発が始まりました。



これは、Uni-Type プロジェクトにおけるそれぞれの役割を示しています。デザイン設計は、千葉大学の宮崎教授にお願いし、デジタル処理作業は当社が行いました。できあがった試作デザインを千葉大学大学院の日比野教授に評価実験をしてもらいベンチマーク書体より優位性がみられなければ、白紙からデザインを見直すという作業を何度も行ったわけです。



このようにしてまず、非漢字デザインが徐々にできあがってきました。その一例が下図です。

一般の書体	Uni-Type
ぱびぶべぼ ぱびぷぺぼ バビブベボ パビプペポ	ぱびぶべぼ ぱびぷぺぼ バビブベボ パビプペポ
今度パリに遊びに行きます。	今度パリに遊びに行きます。

かな文字のなかで濁点があるのは、「か行」「さ行」「た行」「は行」です。半濁点があるのは「は行」です。半分程度のかな文字が対象になるわけで、結果として Uni-Type の非漢字デザインの顔になるわけです。限られた空間のなかでいかにして濁点、半濁点を目立たせるか？を重視した書体はこれまでにないものです。

このようにして濁点、半濁点のある書体デザインができあがるといくつかのデザインにおけるルールができてきました。それをいくつか紹介しますと

*** 液晶画面における解像度を意識して直線はあくまで直線とし階調表現における影響度を極力避ける**

*** 非漢字のデザインを大きく目立たせるようなラインとし小さくしても見やすくする**

文字の可読性を実験していくと、被験者が限界と思える小さなサイズにおいて日本語は非漢字がきちんと読めれば、その前後の文章から漢字を予想することができる傾向があり、通常漢字よりも小さくデザインする日本語書体の過去の常識を捨てることになりました。Uni-Type が他の書体と小さなポイントで比較すると、1 サイズ大きく見えるのはこのような理由からです。

このようにして非漢字デザインを確立させるのに多くの時間と人的エネルギーを割くことになりました。このあと、漢字をデザインするにあたり、辺、旁（つくり）のパーツに分解しパーツごとにデザインを再構築するという作業を行いました。このとき注意したのは、やはり直線はあくまで直線とし、とくに水平線を強調しました。小さくしたときに水平線に階調表現がでてくると、潰れやすい印象になるのです。また空間を広げることで「懐の大きい」デザインとしました。アナログデザインの名残となっている余分な線もすべてなくし、すっきりデザインとなっています。



このようにしてできあがった書体を最終的に文章として被験者に見てもらい、被験者個人ごとの最小可読サイズにおける印象評価を行いました。結果として、「非漢字が大きく感じられ小さなサイズでの可読性に優位性が見られる」という実験結果にたどり着いたわけです。

なお、被験者は10～20代を中心に行いましたが、書体が完成した後の印象試験では50～60代の被験者にも参加してもらい、高齢者における評価も確認いたしました。

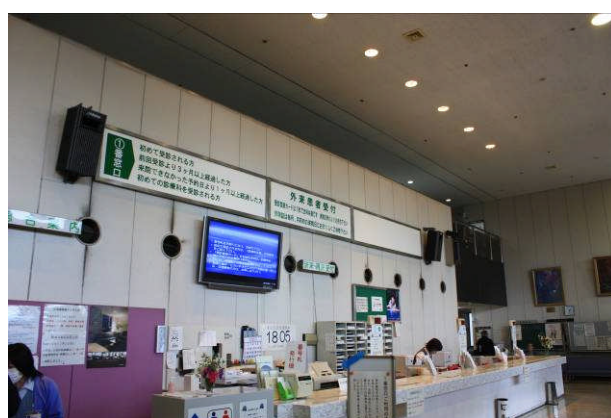
ユニバーサルデザインという性格上、社会的評価がなければ本来の意味を成しません。2007年に、デザインの専門雑誌 NIKKEI・DESIGN にて UD 取組企業ランキング 32 位と紹介されましたが、100 位以内は上場企業が多く未上場の知名度の低い当社がランクインするのはきわめて珍しいことであるとともに、Uni-Type の社会的評価が認められた結果であると考えております。

以下に Uni-Type に関するニュース記事をまとめておきました。

- 2008 年 1 月 日経MJ 表示用の新しい日本語書体として紹介
- 2008 年 3 月 朝日新聞・日曜別紙版に記事掲載
- 2008 年 4 月 中小企業整備基盤機構による産学連携成功事例に選出される
- 2008 年 6 月 経済産業省・産業技術調査に記事掲載
- 2008 年 10 月 科学技術振興機構の発行する産学官連携ジャーナルに掲載される
グッドデザインしずおか 2008・県知事賞受賞

千葉大学病院での Uni-Type 導入事例

これは、ケータイとは違い、非常に大きな液晶画面での表示ですが、これを見る人は離れた場所から見るためケータイ画面で小さな文字を見るのと同じ条件になります。このようなケースでの導入は当社は予想していませんでしたが、Uni-Type の新たな普及の可能性が見えてきたと思います。



また最近では、薬のパッケージにおける注意書きなどに Uni-Type の導入を考えている企業もでてきており今後、ケータイ製品以外でも様々な分野での普及を期待しております。

ケータイ製品ほかへの導入事例

- * au から 2009 年夏モデルとして発売されるケータイ biblio (東芝) はブックケータイとして「本を読む」ことを提案した製品で、Uni-Type が標準フォントとして採用されました。この他の東芝のケータイでも、Uni-Type が標準採用されております。



- * 富士通ケータイのらくらくホン プレミアムでは、ワンセグ放送用のフォントとして Uni-Type が採用されました (冒頭写真)。

- * アルパインのカーナビ製品で、Uni-Type が採用されました。

Case study: メディアのUD プロジェクト

メディアのユニバーサルデザイン

メディアのUDプロジェクト 担当理事 久野 哲郎（大日本印刷株式会社）

副主査 亀田 和宏（株式会社 DNP メディアクリエイト）

<メディアのUD プロジェクトについて>

「メディアのUDプロジェクト」は、IAUDの研究開発企画部会として8番目に誕生しました。2008年8月に活動を開始して、まだ1年足らずの発展途上のプロジェクトです。先行する他のプロジェクトのような成果にはまだまだの状態ですが、IAUD 会員企業の方々に「知ってもらおう」「興味を持ってもらう」そして「参加したくなる」ために、なぜプロジェクトが生まれたか、どのようにして今に至っているかをご紹介します。メディアのUDプロジェクトのメンバーが目指しているテーマをご理解いただければと思います。

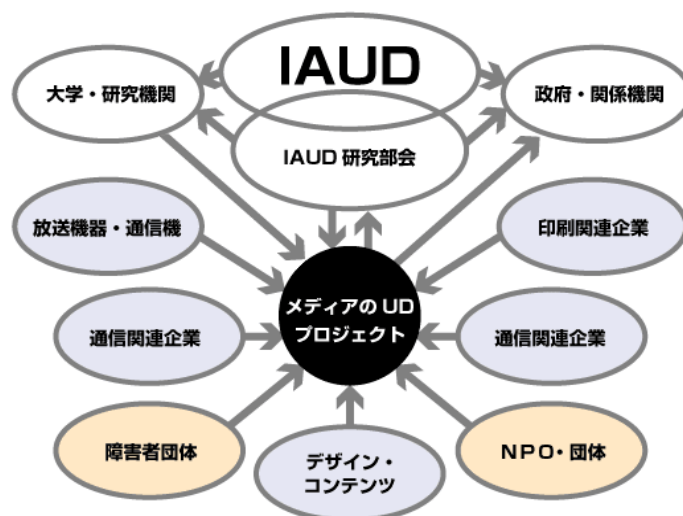
■なぜプロジェクトが生まれたか

理由のひとつはデジタル技術の進歩で、コミュニケーションツール（携帯電話、パソコン）が発達し、さまざまなメディアとその使用者との関係が大きく変化してきたことです。そこには、新たな情報弱者の発生の可能性があります。もうひとつの理由は、人の多様な色覚（色弱者）に配慮したカラーユニバーサルデザインの具体的な活動が活発になってきたことです。NPO 法人や印刷関連企業、機器メーカーの活動などが注目されてきました。—このような環境の変化に対しての取り組みが必要となってきました。

■プロジェクトの成り立ちは

NPO 法人カラーユニバーサルデザイン機構副理事長の伊賀氏を主査とし準備室が 2008 年5月にスタートしました。幅広く参加企業を募るために、7月より IAUD のホームページ上に参加の呼びかけとプロジェクト構想イメージをアップロードし募集を開始しました（どれくらいの方々へ声が届くのか、大変不安でした）。

約1ヶ月の募集期間を経て、8月6日のキックオフには10社1団体14名の参加を得て無事に船出となりました。たくさんの方々からロコミで応援していただいたのも事実ですが、改めてウェブサイト（Web）のチカラを再認識する結果となりました。

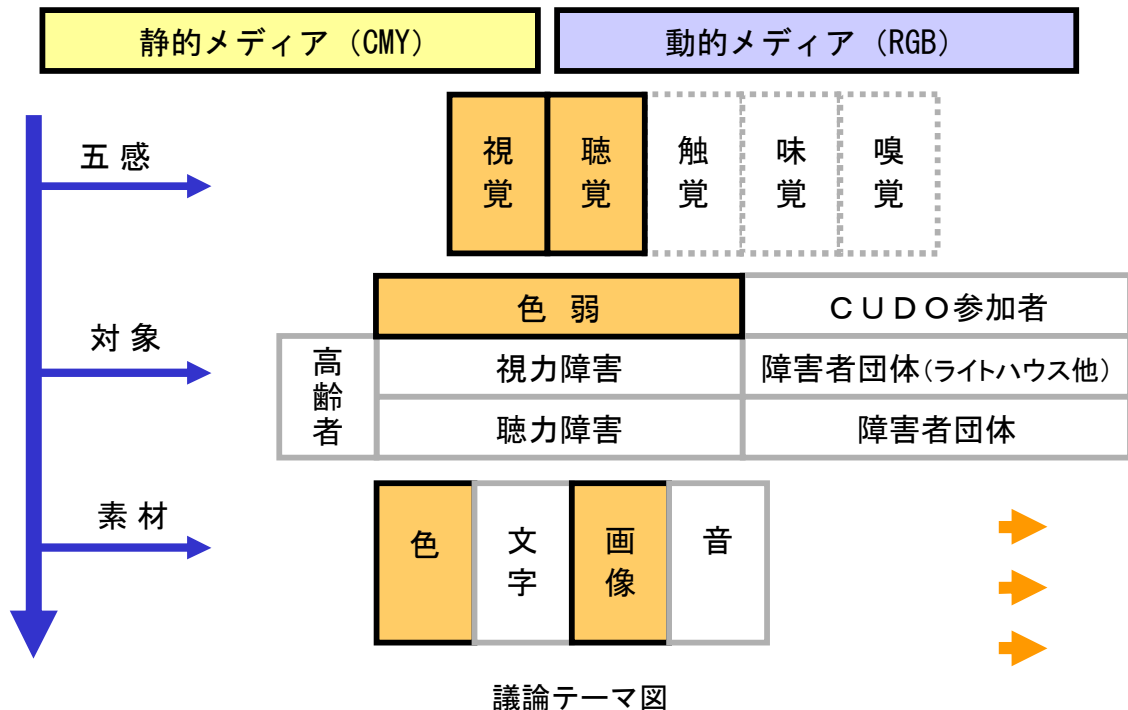


プロジェクト構想イメージ

■テーマ選定の議論

「必要は発明の母」といいますが、テーマこそがプロジェクトのコアです。メンバー全員の一一致は困難ですが、可能な限りこのプロジェクトに期待することを聞き、議論を進めました。メディアという言葉の概念、意味の捕らえ方に時間をとられながら約半年の紆余曲折を経て、メディアの包含する要素（色、文字、音、香り、味など）やカラーユニバーサルデザインの情報などを考慮し「色を中心としたメディアの課題」を入り口に選択しました。

現在、14 団体・社のプロジェクトとなり、8 回のミーティングには延べ 127 人の参加者を数えています。今後も、出版、映像、印刷関連、通信、業界団体、自治体といったメンバーで議論と研究を続けています。



<視察・見学などのフィールドワークを展開>

株式会社リコー プリンティングイノベーションセンター(PIC)見学:2008年11月5日

日本初のカラーユニバーサルデザイン (CUD) マネジメントシステムによるショールームを見学。(株)リコーは、かねてより製品や企業広報物に対し認証を取得し、独自のCUDガイドラインの設定や社内教育を通じて、カラーユニバーサルデザインの推進を自社のCSR活動として取り組んでいます。従来の物件(モノ)ではなく、手法を対象とした認証を取得した経緯の説明をうけました。ショールーム内の設備、表示、説明映像・印刷物から、プレゼンター教育まで、運営していく上で変化していくものに対して確認する仕組み作りが、今後の活動の参考となりました。(参加10名)

横浜市営地下鉄交通局 グリーンライン見学:2009年2月4日

横浜市営地下鉄グリーンライン中山駅は08年度バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰で「内閣府特命担当大臣表彰優良賞」を受賞。開発担当よりグリーンライン開発にあたっての経過と表示サインへのカラーユニバーサルデザイン導入について経緯の説明をうけた後、コンコース(発券機周辺/交通案内)から駅構内、プラットフォームを見学。グリーンラインは開発当初から、多様なステークホルダー(地域住民、障害者団体、NPO等)との対話を通じて、計

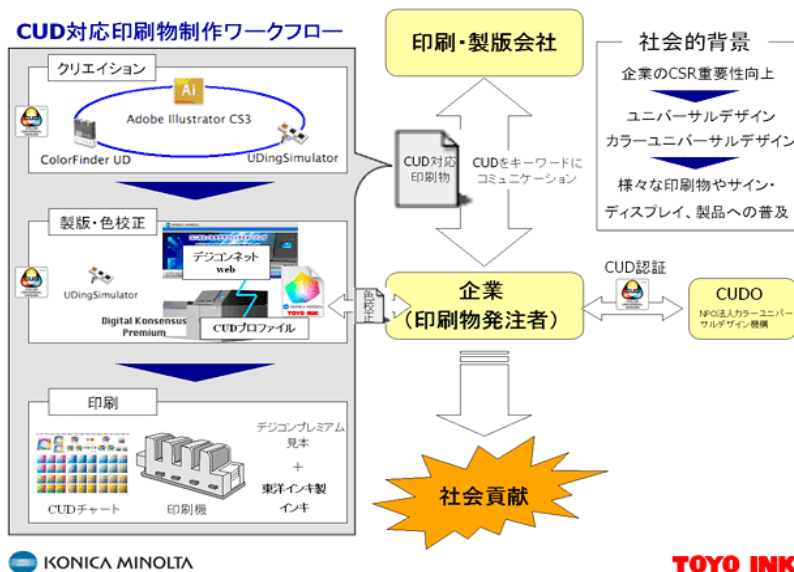
画の修正を実行。建設途中にあっても、同様にモニタリングを継続することで改善、修正を重ね、結果的に事業予算も当初より大幅の削減に成功しています。作り手の一方的な思いだけでなく、使い手の意見に耳を傾けて真摯に対応していく姿勢が、今後の活動の参考となりました。(参加19名)



見学状況

カラーユニバーサルデザイン対応印刷物制作ワークフロー ヒヤリング : 3月17日

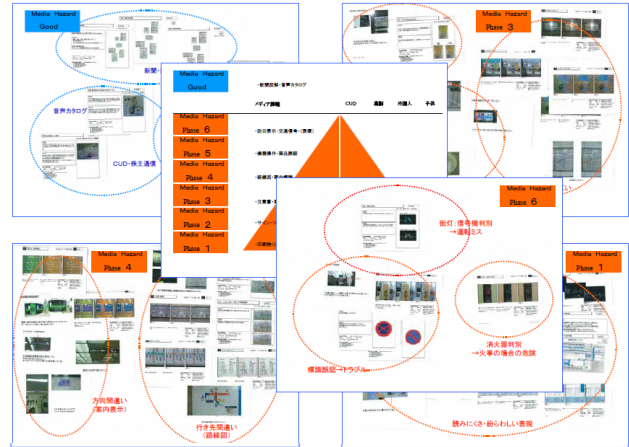
従来の上流(デザイン段階)でのシミュレーションから、より最終印刷物に近い段階でのシミュレーションを可能にする色校正システムでのアプリケーション開発。東洋インキ製造(株)マーケティング部池田氏、コニカミノルタ グラフィックイメージ(株)黒岩氏から開発経緯の説明をうけました。印刷物制作ワークフローの中でカラーUD を実践する機会を提供しようとする姿勢が、今後の活動の参考となりました。(参加者20名)



ワークフロー概念

＜色を中心とした活動を推進＞

「観察から気づきへ」のアプローチとして、メディアにおける色のハザード事例を自らの目と足で収集・研究しています。誤認や誤動作につながる事象をメディア別（製品・サイン/表示・印刷・Web・映像/動画・店舗・サービス/ソフト・その他）に、レベルを重篤な危険（命が危ない）から、中程度の危険（大けがをする）、軽微な危険（軽傷のけがをする）、享受すべき利益を逸失する、不便（紛らわしい）、の5段階に分け評価を行い、原因についての議論を行っています。



サンプリング事例

今後は、外部研究機関と連携しながら、メディアにおけるハザードの事例研究をすすめていきます。2010年の国際大会にむけて、対応すべき課題を絞り込み具体的な提言・活動につなげていきます。

END

世界の UD 動向

● 日本人間工学会第50回記念大会「人間工学活用事例展示」でIAUDの活動を紹介

情報交流センター 蔦谷邦夫

日本人間工学会の本年度大会が、つくば市の産業技術総合研究所(産総研)において、6月10日(水)～12日(金)の3日間開催されました。今回は第50回記念ということで、通常のシンポジウムやセッションに加え、特別講演や人間工学活用事例展示、人間工学歴史写真展示などが行われました。

IAUDは人間工学活用事例展示として研究開発企画部会のPJ/WG活動をパネルで紹介し、標準化研究WGで作成を進めているWeb版「IAUD UDマトリックス ユーザー情報集・事例集」をデモ展示しました。また、IAUD紹介パンフレットや2006年国際UD会議の論文集・講演集も合わせて展示しました。

展示会場となった情報棟ホワイエは大会参加者だけでなく一般の来所者の人通りもあり、会期中、500名以上の全国からの大会参加者とともにたまたま訪れた通りがかりの方にもご覧いただきました。

「IAUD UDマトリックス」は日本人間工学会のUDマトリックスの考え方がベースとなっており、今回展示したWeb版は具体的なユーザー情報や事例をまとめ、UDツールとしてより使いやすくすることをねらいとして、ここ数年にわたりWGで取り組んできたものです。IAUD会員向けサイトで間もなく公開予定です。

会場での反応は、学会ということもあり展示のテーマにより興味の有無がはっきりしている印象を受けましたが、中には熱心に質問される方や話し込まれる方もいました。



人間工学活用事例展示

IAUDの他には、経済産業省、(社)人間生活工学研究センター、キッズデザイン協議会など7団体の展示が行われましたが、人間工学会の「人間工学グッドプラクティスデータベース」登録事例紹介など、具体的な商品を展示しているところに来場者の関心が集まっていました。



人間工学会「人間工学グッドプラクティスデータベース」



同 ISO/TC159 国内対策委員会



(社)人間生活工学研究センター



キッズデザイン協議会



経済産業省

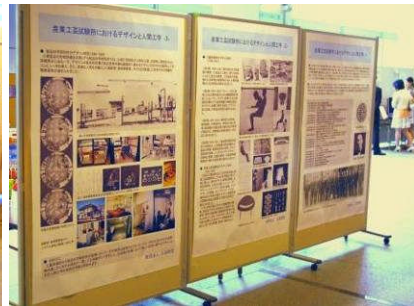
人間工学の歴史展示

今回は第50回記念大会ということで、日本における人間工学の歴史を紹介する展示も行われました。写真による展示では新幹線開通当時の運転席や座席の人間工学的検証の様子など、人間工学会設立初期の機関誌「人間工学」に掲載された石松健男氏の写真を中心に展示されました。

また、(財)工芸財団により「人間工学のルーツとしてのデザインの歴史」として産業工芸試験所におけるデザインと人間工学に関する展示が行われました。



日本人間工学会による写真展示



(財)工芸財団

所感：特別講演「構成学としての人間工学に期待すること」を聴いて

大会初日6月10日の午後に行われた、今回の大会長でもある産総研の赤松幹之氏の特別講演をお聴きしました。そこで感じたことを少し書いてみたいと思います。

産総研ではさまざまな研究を実際の社会に役立てるためには、その内容をしっかり社会に伝え、要素技術を再構成する必要がある、という観点から「シンセシオロジー—構成学」という情報誌を昨年創刊し、編集・発行されています。講演内容は私の理解では、人間工学は自然科学と社会科学の両方の側面があり、幅広い概念であるが故の困難さを持つため、社会に貢献できる領域となるためには「構成学」というアプローチが有効であろう、というものです。



産総研発行の「シンセシオロジー—構成学」

UDも幅広い概念を持つ領域であるという点では人間工学と通じる点があります。またUDはユーザビリティなどと比較し方法論が確立していない、との指摘もあります。UDを実践していくためには幅広い領域の知見をいかに組み合わせ、総合していくかということが重要な課題ですが、この「構成学」的研究というのがUDのアプローチとしても有効なのは、と直感的にですが感じました。人間工学は学問としては比較的新しい領域ですが、それでも1963年の第1回研究会から46年という歴史があります。UDはそれと比べるとまだまだ発展途上ですが、これらの関連領域の知見を積極的に取り入れてゆくことも必要だと感じました。ぜひ、本誌でもアンテナを高くて関連する領域を取り扱っていきたいと思います。

「シンセシオロジー—構成学」サイト <http://www.aist.go.jp/synthesiology/index.html>

●第5回「ユニバーサルキャンプ in 八丈島」参加者募集！

本誌5月号で会員の(株)丹青社さんの第6回「企業フィランソロピー大賞」特別賞受賞のニュースでもご紹介しましたが、今年も「ユニバーサルキャンプ in 八丈島」が開催されます。主催者のNPOユニバーサルイベント協会からご案内をいただきましたのでお知らせします。



ユニバーサルキャンプは『みんなが一緒に生き生き暮らせる社会』への実現に向けた、全く新しい交流イベントです。八丈島の豊かな自然の中で、さまざまな特性の人たちと対等な関係でサポートし合い、ダイバーシティを満喫する3日間。新しい自分と仲間に出会う発見の旅に出かけませんか？

<開催概要>

- 名称：第5回「ユニバーサルキャンプ in 八丈島」
日時：9月12日（土）から14日（月）
場所：東京都八丈島、底土キャンプ場
定員：150名（予定）
参加費：15,000円（交通費別、往復航空券は参加者各自で手配※）
主催：NPOユニバーサルイベント協会ユニバーサルキャンプ実行委員会
共催：東京都八丈島八丈町、(株)丹青社、(株)UDジャパン
後援：国際ユニヴァーサルデザイン協議会（予定）
社団法人日本イベント産業振興協会
社団法人日本フィランソロピー協会

※ 空港からキャンプ場までの送迎はスタッフが行います。その他、割安な運賃の情報など、お気軽にメールにてお問合せください。

- ・お申込みは下記のウェブサイトからお願いいたします。
- ・事前・事後の研修がセットになった企業向けプログラムもご用意しております。詳細はお問合せください。

皆さまと八丈島でお会いできる日を楽しみにしております。



お問い合わせ・お申し込み先

NPO 法人ユニバーサルイベント協会事務局

担当：飯塚佳代（いづか かよ）

〒108-0075 東京都港区港南 2-12-27 イケダヤ品川ビル 3 F

TEL：03-5460-8858 FAX：03-5460-0240

E-mail：info@u-event.jp URL：http://www.u-event.jp/

● 「ユニヴァーサルデザイン・アワード 2010」のお知らせ

アワード主催者である universal design GmbH から、前回の審査員を務められた川原啓嗣専務理事あてに本年度の開催案内が送られてきましたのでお知らせします。（本誌 2009 年 2 月号の「ユニヴァーサルデザイン・アワード'09 審査会参加報告」もご参考ください。）

新しいトレンドをつくる建築やインテリア、プロダクトデザインやサービス分野を対象としたこの国際デザインコンペティションは今回、第 3 回目を迎えます。

ユニヴァーサルデザインをテーマとされているプロダクトデザイナーやグラフィックデザイナー、建築家、インテリアデザイナー、企業、サービス業およびサービスデザイナーの皆さまの「ユニヴァーサルデザイン・アワード 2010」への参加をお待ちしています。

「ユニヴァーサルデザイン・アワード 2010」の受賞作品は、ミュンヘンのフリッツ・フレンクラー教授が委員長を務める専門家により組織された審査委員会の非公開の審査会により選出されます。また、今回、第 3 回目となる「ユニヴァーサルデザイン・コンシューマーフェイバリット 2010」の受賞作品も消費者代表の横断的グループ 100 名により選出されます。

応募締め切り： 2009 年 12 月 15 日

「ユニヴァーサルデザイン・アワード 2010」の受賞作品は、2010 年 3 月 2～8 日、ドイツのハノーバ市にて開催される CeBIT 会場内で「デザイン：ド ライヴィング・イノベーション (driving innovation)」として特別展示されます。

詳細については、以下のサイトをご参照ください。

http://www.ud-germany.de/cms/ud/en/universal_design_award_2010/the_award

【編集後記】○環境省は6月24日、「エコポイント交換商品カタログ」を発表した。一定の省エネ基準を達成した「エアコン」「冷蔵庫」「地デジ対応テレビ」を購入した際に付与される「エコポイント」と交換できる商品のリストである。Suicaといった電子マネー、お米券やビール券といった商品券もあり、全部で271品目にもなる。また自動車についても、エコカー減税が実施されている。一定以上の排出ガス基準と燃費基準を満たしたクルマを対象に、自動車取得税や重量税の免税・減税措置を講じるというものである。また1年限りではあるがエコカー購入補助金制度もある。これらの施策は、地球温暖化対策の推進や経済活性化などが目的とされ、その効果が期待がかかっている。テレビでも家電売り場の賑わいと混雑や一部の自動車の売れ行き増などが報道されている。環境に対する関心の高まりと言える現象かもしれない。(矢)

○家内の知人から犬を預かり1か月半になります。犬種はチワワと聞いていたものの、体形がかなりずんぐりしていて毛足が短く、体色も豆柴のような感じなので、散歩のたびに「犬種は何ですか？」と頻りに尋ねられます。当の本人(本犬?)はそんなこと一向に構う様子はなく、チワワらしからぬ力強さで仮の主人を勝手気ままにあちこちひっぱりまわしていますが、犬も人も多様性という点では本当に様々です。その気まぐれぶりも相当で、スタスタ軽やかに歩いていたかと思えば突然立ちすくみ、遠くを眺めたまま頑と動かなくなったりします。最初は、本当のご主人さまを思い出して寂しがっているのかと同情したりしましたが、そればかりでもないらしい。50数年の人生で犬を飼った経験のない自分にとっていろいろ新たな発見もあり、毎朝の楽しみとなっています。犬と人を一緒にする訳ではありませんが、外見や能力の多様さとともに心の中も千差万別、UDの難しさに通じるものを感じつつ、日々ウンチの後始末をしているこの頃です。なお、本人の名誉のため付け加えると、このずんぐり君、近所の獣医さんによれば犬種は間違いなくチワワだそうです。(鳶)

IAUD Newsletter では、誌面を会員の皆さまの UD に関わる情報交換の場と位置づけています。ぜひ、会員企業の UD 商品開発事例やPJ/WGの活動成果事例等の情報をお寄せください。また、国内外の UD 関連イベント、シンポジウム等の開催情報もお知らせください。ご連絡は、news@iaud.net へ直接、メールをお送りいただくか、事務局あるいは情報交流センターまでお問い合わせいただいても結構です。

無断転載禁止

IAUD Newsletter vol.2 No.4
2009年7月1日発行
国際ユニヴァーサルデザイン協議会

事務局 : 225-0003 横浜市青葉区新石川 2-13-18-110
電話: 045-901-8420 FAX: 045-901-8417
e-mail: info@iaud.net
情報交流センター: 104-0032 東京都中央区八丁堀 2-25-9
(IAUD サロン) トヨタ八丁堀ビル 4 階
電話: 03-5541-5846 FAX: 03-5541-5847
e-mail: salon@iaud.net